

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に置き、いつでも見られるところに掲示し、笑顔で安心して過ごすことができるように共有し実践に活かされるよう努めている。	『笑顔で安心一緒に暮らそう。あなたと私ずつと家族だよ』という開設時から掲げている理念を基に、ご利用者の笑顔、職員の笑顔を大切にしたケアを行っています。また、事業所内の各所に理念を掲示してあり、理念を実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで地域の人にあったら挨拶したり、馴染みの美容院に行ったり来たりとの交流は続けている。コロナ禍で出来なかった部分は今後につなげたい。	現在は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年であれば、歌や踊りのボランティアの方に来ていただいたり、中学生に体験学習に来ていただいたり、近隣の事業所と交流会を開催するなどして、近隣の方々とは日常的に交流し、馴染みの関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前の取り組みはオレンジカフェの場の提供や参加を行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成委員会の方から意見・要望を聞き、サービス向上に努めている。資料の写真を見るのが楽しみと頂いたときは張り合いが持てる。	新型コロナウイルスの影響で書面送付での開催もありますが、民生委員や近隣の住民、市の担当者や地域包括支援センター職員、ご家族に2ヶ月に1度事業所の状況報告を行い、頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な時の相談ができる関係性を築けるよう努めている。運営推進会議や認定調査の時など意見交換している。	市の担当者や地域包括支援センター職員には運営推進会議にて事業所の状況報告を行い、意見やアドバイスも頂いています。また、事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部の研修を取り入れ、身体拘束の理解を深め、共有、検討を踏まえながら、拘束しないケアを常に目指している。	ホームとして身体拘束は行わない方針ですが、やむを得ず身体拘束を行う場合もご家族の同意を得ています。玄関の施錠も夜間のみとし、チェックリストで確認したり、身体拘束に関する検討会も行ない、身体拘束をしないケアに努めています。	身体拘束に関する検討会は3ヶ月に1度は定期的で開催されるように調整されることを期待します。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を開いたり、外部に出かけたりして知識を身につけられるように努め検討し合い、身近なところで言葉遣いには気を付けて関わっている。	管理者・職員は、グループホームの密室性が虐待につながる可能性をよく理解しており、市主催の研修会に参加したり、虐待防止に関する検討会も行ない、防止に取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいるので参考にしたり、理解できてないところも学習の機会を持ちたい。今後機会があれば研修等に参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧な説明を心がけ、利用者・家族の話にも耳を傾け、安心して利用開始できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での発信や、月のお便り、面会時などやり取りの中から添えられる希望は検討し反映できるようにしている。	毎月のお手紙や事業所の広報もお送りし、情報提供を行っています。苦情などは寄せられていませんが、玄関にご意見箱も設置し、面会時に確認したご家族の要望を実際に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常、ミーティング時、センター方式の時など、意見交換や提案をし試せる機会を設け、反映に繋げている。	職員が日頃の気づいた点も改善提案を行っているほか、毎月ミーティングを行い、職員の意見を吸い上げるようにしています。社長、管理者も個別面談の機会を設け、職員とも業務の中で意見交換を行ない、対応するようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の調整や職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部の研修を取り入れ、学ぶ機会を作れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は減ったがオンラインでの研修に参加する機会があることで多少なりとも意見交換ができ、その情報をサービスに繋げていけるよう検討している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し、職員間で共有し要望に応えられるよう検討し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がどう思っているのか話を聞き、利用開始時でも利用中でも意向を確認し安心できる関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時から必要なものを確認しサービス事業者と連絡を取り合い、本人の納得を得た上で利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに助け助けられの関係ができ、「ありがとう」の言葉も素直に出てくる良好な関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙や来訪時、電話連絡の時など利用者や家族の状況を踏まえたうえで安心できる支援に繋がれるように努めている。	事業所広報の「あったか通信」と担当職員が作成するお手紙を毎月送付しているほか、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、外出・受診の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院、ドライブや友人等の来訪など本人が大切にしてきた関係を続けられるように支援している。	親族の方に定期的に面会に来て頂いたり、個別支援で行きつけの美容院を利用したりと今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとり一人の性格などを把握しイベント時には席に配慮したり、それぞれに楽しめる形作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した家族から、野菜などの差し入れがあったり情報をもらったりしている。必要があれば相談にも乗り支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を聞き、家族にも承諾を得ながら希望に添えられるところは実践している。意思決定が難しい時は本人本位の立場から検討し、様子を見ながら支援している。	散歩に出かけたい方、自宅へ行きたい方、畑をしたい方、ご本人が話してくれたり、訴えてくる希望に添えるように日々の生活の中で聞こえてくる会話なども耳を傾けて把握するようにしています。また、センター方式の書式を使用し、日々の生活のなかで得た情報を職員間で共有し、支援できるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過ごしやすい環境づくりに努め、本人の馴染みのあるものや欲しいものなど家族と相談し合い、情報を共有している。	事前面接の際にご家族やご本人に聞きながら情報を集めたり、入居前のケアマネに教えていただいたり、面会に来ていただいた友人から教えてもらったりと情報の把握に努力しています。また、定期的に情報の更新の機会も設けており、職員間でも情報共有できるように努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りやバイタル表など確認し、本人のペースを把握し状態に応じた支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を踏まえたプランを作成し職員間で検討しながら、現状にあったプラン作りをしている。	毎月の会議にてカンファレンスを行い、3ヶ月に1回は定期的にモニタリングも行っています。ご家族の要望も確認し、プランに取り入れ、日々のサービスに繋げています。	介護計画書の長期・短期目標の対象期間が記載されていない方もいましたので、今後ミスに無いように改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・申し送り事項を共有し、工夫と検討を繰り返しながら実践・見直しに繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時の通院同行や、家族への説明など状況に合わせた対応に努めている。柔軟の対応ができればいいと思っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人に必要なものなど用意できる店(資源)など探し、心豊かになれたり喜んでもらえるように実施している。地域のお祭りを見に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の往診時や変化がある時の連絡、指示を仰ぐ等いつでも相談し合える関係作りが築かれていると思う。利用者の状態を的確に伝えられるよう努力している。	協力医以外の受診は基本的にご家族にお願いしています。医療機関には受診連絡表を渡し、情報提供を行なっています。月に1度は往診に来ていただいております。連携を図りながら対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないため直接主治医に連絡を入れたり、医院の方へ情報を入れて対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換やカンファレンスに出席し、退院のめどや本人の状態などの意見交換、確認などしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には看取り意思確認書を記載してもらっているが本人の意思は把握することが難しく家族の方針をチームで共有し支援に繋げている。	契約段階で管理者は、ターミナルまで支援することを前提としたホームであることを伝え、看取りの指針やマニュアルを整備しています。また、ホームでできること、できないことを明確に示し、ご利用者の状態に応じて主治医、ご家族とその都度話し合いを行っております。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で集団での実技講習はできず行っていない。内部研修を行い、知識を身につけられるように努めている。	全職員に普通救命講習の受講を勧め、事業所内でも研修の機会を設け、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。避難方法など学ぶ機会をさらに持ち、対応に焦らない気持ちを持ちながら努めている。	火災や水害を想定した避難訓練を年2回実施し、運営推進会議に参加してもらっている近所の方々には非常時の際の協力を依頼しております。また、非常用の食品についても定期的に点検しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格・性格に合わせた対応で人生の先輩として尊重し、プライバシーを損ねず思いやりをもって接することに努めている。	広報誌への写真の掲載は入居の際に同意を得てから行なわれており、声かけも方言を使用してもきつい言葉にならないように配慮し、支援が行なわれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こんな時何が食べたい？今日はどの服を着るかなど日常的に本人の意思をくみ取る対応をしている。困難な方には本人が喜ぶだろうと想像しながら選んだりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で何でも出来る方には自由に行動してもらっているが、支援が必要な方に対しては職員のペースで動いていることが多い気がする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度や整容(髪)等本人の意思を大切にしながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には下ごしらえを手伝ってもらったり食器拭きをして頂いたりしている。たまにイベントの時など盛り付けや味見などしてもらっている。	ご利用者にもできる範囲で調理や味付け、後片付けなどにも参加していただいています。また、誕生日には希望食を取り入れたり、ご利用者と一緒に外食に出かけたりおはぎ作りも行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂れる栄養の目安を頭に置きながら献立を考え、食事形態や食事量の確認をし、検討し合いながら栄養・水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで紅茶でうがいや歯磨き、口腔スポンジを使うなど、その人にあった口腔ケアの実施をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導から大体の排泄パターンを見出し、自然に排泄が出来るよう支援している。失敗を気にされないような声掛けにも努めている。	必要な方には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしており、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材や、オリゴ糖を使い十分な水分摂取を工夫している。うまくいくときもあればそうでない時もあるので最後は薬に頼ってしまう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望する時間帯があれば調整し体調、気分によって入りたくない時は無理強いはいしない又は清拭の声掛けをしている。本人のペースを大切にできるよう努めている。	ご利用者の要望を考慮し、入りたいと思う時間に入っていただいている方もいます。入浴を嫌がる方には声かけのタイミングを変えるなどして入浴をしていただけるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りや体調を伺い、休息をとってもらったり、室温にも気を配り調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬カードを確認し、服薬時もきちんと飲み込むまで意識してみているようにしている。薬が変わった時や体調変化時にも職員間で共有しすぐに主治医に連絡をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人にあった楽しみ方を把握し、気持ちよく過ごすことができるように又好きな食べ物、飲み物を提供したり得意なことを見出せるように日々努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば意向に添えるように努めている。以前より少なくなったが地域の馴染みの方も協力してくれる人もいます。	新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、ご利用者と一緒近くのスーパーに食材の買物に出かけているほか、季節に合わせてお花見やコスモス見学にも出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の方や、預り金からお小遣いとして渡す利用者もいるが、ほとんどが職員管理で必要に応じて職員が購入などしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取りつないだり、上手く聞き取れないような時は職員が間に入り、楽しく会話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激音や不快音をなるべく出さないように意識してやっている。季節に合った飾りを考えたり、排気臭には消臭効果の高い緑茶を煎って臭いを消している。	全体的に木材を取り入れた温かみのある内装になっており、飾られている写真や装飾品も家庭的です。食堂のテーブルも一般家庭と同様のものを使用しており、季節の花も飾るなどして、居心地のよいリビングになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりで過ごしたくない方や休んでいたい方などそれぞれ思いにあった過ごし方で、仲間と楽しく会話したり、お手伝いしたり、屋内散歩を試みたり個々に少しでも楽しめるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から写真を持ってきて置いたり、気の合う仲間を招いておしゃべりしたり、読みたい本など持ち込んで枕元に置いたり、自由に快適に過ごせる環境づくりに努めている。	居室には、ベッドやテレビなどをご自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真や家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所など見やすく表示したり、困っている事への手助けができるようにしている。一緒に行動することで安心する利用者もいるので寄り添う姿勢も崩さないようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				